

1	審議会名	第6回真田地域協議会
2	日時	令和5年9月26日(火) 午後7時00分から午後8時20分まで
3	会場	真田地域自治センター3階 講堂
4	出席者	荒木克子 委員、金井由造 委員、木島徳行 委員、澁澤春代 委員、関口俊行 委員、高寺由美子 委員、田畑和秀 委員、中村守 委員、廣瀬しず江 委員、堀内靖子 委員、本多美和 委員、松本規男 委員、丸山美奈子 委員、皆川克彦 委員、宮島淳 委員、柳沢泉 委員
5	市側出席者	山浦課長補佐兼調査計画担当係長、竹内調査計画担当主査、東城調査計画担当主任横沢交通政策課長、市川課長補佐兼交通政策担当係長、一本鎗交通政策担当主事田中地域自治センター長、羽毛田地域自治センター次長兼地域振興課長、半田市民サービス課長、小林産業観光課長、田中真田地域建設課長、松木教育事務所長、山浦真田消防署長、下平真田地域建設課管理担当係長 宮島課長補佐兼地域政策担当係長、櫻井主査、坂井主事、望月主査 国土開発センター2名
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和5年9月28日

協議事項等

会議次第

1 開会(中村副会長進行)

2 会長あいさつ

3 センター長あいさつ

- ・災害等報告

4 協議事項

- ・上田市都市計画マスタープラン及び上田市立地適正化計画の改定について

山浦課長補佐兼調査計画担当係長から説明

【質疑】

(委員) 3ページの、⑫に大沢川などと記載があるが、先日の災害でも急傾斜地にある河川が多い。短時間で急激に下ってくる川ばかりなのでそういったところも関わる部分なのか。

(都市計画課担当係長) 資料には大沢川と記載があるが、様々な河川といった表現か、限定しない表現がいいか、建設課と相談しつつ、全体にいきわたるような表現も検討してみたい。

(委員) 大沢川には特に何か河川整備等の計画があるのか。

(真田地域建設課長) 大沢川に関しては、昨年度から地域要望を何箇所かいただいている中で、全体を維持管理できる河川の整備について委託業務の設計を進めている。これについては、河川改修ではなく、河川を維持管理する現状をどうあるべきかという委託設計のため、来年度以降の中で維持管理ができるよう精査している。

(委員) 国土交通省で盛んに声が上がっているコンパクトシティに関する計画について、上田はどのようなものか、現状どういう段階であるのか教えてほしい。

(都市計画課担当係長) 上田市全体ではコンパクトシティを目指していきたいという方針だ。ただコンパクトシティもそれぞれ拠点のある話で、真田地域、丸子、武石、さらに塩田、川西など旧合併前市町村単位でも拠点となっている。そういった拠点を大きな拠点の上田中心街と結びつけるネットワークという考えで、まちづくりをしていく。それぞれの地域の拠点を大事にしつつ、このあと説明のある公共交通、また幹線道路などにより結び付ける、こういったネットワークによるまちづくりを目指していきたい

いと考える。

(委員) ではまだ具体的というよりおおまかな計画という話だ。

(委員) 先ほどの資料にも何度か出ている生活拠点や自治センターなどの拠点ということの記載もあるが、特に真田地域などでも人口減少が続いている。そう考えるとこれからの人口動態がどうなっていくか、そういった背景がなければせっかくの計画も絵に描いた餅になる。地域の持つベースは様々あるだろうが、これからの人口動態もベースに計画に組み入れていく必要も感じる。それと、色々と市での計画を考えておられるが、市の単独事業で出来ない面もかなり多い。県や国などとの方向性との整合性が問われる。

(都市計画課担当係長) 人口動態の変化に応じた計画づくりという点については御指摘のとおり。上田市の人口減少については、毎年1,000人程度が減っているというのが現状だ。部分的には維持してはいるが、実際にいえば、真田地域では高齢化率が高いことが特徴で、あと30年経ったときに、大変失礼な話ではあるが高齢化率の30%、40%という「率」の方々が地域からいなくなってしまう。地域において、人に住み続けていただきたいという想いの中で拠点性を守っていかなければ地域からどんどん人がいなくなる。そういった意味で地域拠点、生活拠点というのは計画の中で大事にしていきたい。

また、市の単独事業では全てできないという御指摘もそのとおりで、国・県の補助金をもらいながらなんとか進めているという状況である。この計画に記載されているいくつかの事業についても、現時点で国や県の補助を受けられる見込みのある事業について記載している。この概要以外にも計画の冊子には、それらの事業の一部について記載させていただいている。

(委員) どうしても行政的な組織の中で縦割りにになってしまう部分も多いと思う。一方人口動態なども(地域に潜在する課題は)色々な複合的なつながりを持っているものなので、色々な立場の方が議論しないと、補助金活用に制限がでる。そういうものを網羅し、将来に渡りトータルで色々な人が利用しやすい施設等であるよう、計画してほしい。

(都市計画課担当係長) 横の連携を深めながら進めていきたい。

(委員) 今の真田地域の将来像の資料の中で、「推進」と「促進」の表記があるが、どの程度のことを行うのが推進で、どの程度のことを行うのが促進なのか。言葉だけではわからない。また、「保全」という言葉もある。保全という言葉は具体的に何をすることなのか。一見するとああそうかと思うが、よく考えると何をすることがわからない。お話を聞く限りではそのあたりが良く読み取れなかった。

(都市計画課担当係長) まず推進については字のごとく推し進めるということなので市が主体性をもって進めていくという意味を持つ。一方、促進については国道・県道など市が主体性を持っていない部分もあるので促しながら進めていくということになる。保全については、現状を維持したいという意味がある。豊かな自然の保全や景観の保全などが当たる。

(委員) 保全について、自治会でもアレチウリの除去など盛んに依頼があるが、それらを保全というのか。それとも行政的に予算をつけて維持していく事なのか。具体的にどの程度主体性をもって行動していく事を指しているのか。

(都市計画課担当係長) 行政側での保全活動もある。例えば菅平では国定公園のため国の方で保全を行っている。また先ほどの自治会への御依頼としての地域環境の保全も、大変に重要な要素となっている。国立公園の保全、景観の保全、農地の保全などそれぞれの立場もあるが、地域の皆さんの活動においては御理解・御協力をいただけるよう、行政側としてはしっかりサポートしていきたいと考えている。

・上田市地域公共交通計画の策定について

横沢交通政策課長、市川課長補佐兼交通政策担当係長から説明

【質疑】

(委員) 路線バスの話の中で、利用者がバス停に行き着くまでが大変という声が多い。特に真田地域は山間部の土地柄、バス停にたどり着くまでの苦労が利用者の伸び悩みにもつながると感じる。先ほど幹線・支線という話があったが、細かいニーズにまで行き届くような工夫はどのようなものが考えられるか。

(交通政策担当係長) 地域の方々との対話の中で、課題を吸い上げていると地域公共交通の現状としてバス停まで遠い、またたどり着いたとしても買い物等で帰りに重い荷物をもってまた家まで戻るといったことが難しいということをお聞きしている。交通政策課としては、軸となる鉄道やバスの路線を維持していく事を最優先としていく、ということを中心に書かせていただいた計画であるが、それにつながる地域内の交通に関しては、すべて公共が行うことは予算面等で難しい部分もある。地域内での支え合いの力でカバーしていくような手法を紹介させていただいている。例えば他地域になるが、豊殿地区や川辺・泉田地区ではボランティア輸送などの取組が始まっている。そういった具体的な事例などを参考にさせていただければありがたい。

(委員) 上田市のタクシーも多分に漏れず運転手不足などが叫ばれているが、市では上田市のタクシー組合などとも話をしているのか。それとも個別で一社ずつの付き合いなのか。

(交通政策担当係長) 上田市にはタクシー事業者が9つあり、長野県タクシー協会上小支部に加盟している。市としてはこちらと現状課題や情報共有等を行っている。また本計画は上田市公共交通活性化協議会にも議論いただいているが、こちらにもタクシー協会上小支部として代表者が参加していただき、意見をいただいているところである。

(委員) なかなか車を持っている人が公共交通に切り替えるというのは難しいのかと思っている。一方、高校生・学生などにとっては(保護者が)送り迎えよりバスのほうが、こんなに便利な公共交通機関などはないと思う。そういった先へのアプローチなど、どのようなことを取り組んでいるのか。例えば中学校を卒業するときに、(家庭内で通学の交通手段に)迷うと思う。そのようなときにバスに乗ろうと思えるような取組をどのように考えているのか。

(交通政策担当係長) 先ほど運賃低減バスのお話をさせていただいたが、通学定期券もちろん、運賃低減バスの料金が適用になる。高校生の親御さんにとって様々な面で大変負担軽減になると評価をいただいている。中学3年生、受験前の生徒さんにチラシを配り、鉄道やバスの利用についての周知を行っている。また、真田地域内においては、保育園・幼稚園児や小学生を対象にバスの乗車体験をしていただく取組を実施していただいております。普段バスに乗る機会のない方にもバスの乗り方や慣れ親しんでいただく機会を設けてもらっている。将来、バスを使ってもいいかなと思えるきっかけになればと思っている。計画策定にあたりアンケートを実施したが、高校生の中でも通学先を選ぶのにどのような通学手段とるかという点、公共交通の存在についても重要視している方が非常に多いのにもかかわらず、親御さんが送迎をされている方も多し。親御さんの負担を軽減させるための公共交通利用というような視点を変えたPRを積極的にしていく必要があると感じている。

(委員) アンケートしていただいたり様々な取組をしていただいたり、良かったと思うが、受験前の生徒さんにチラシを配るというが、経験上お子さんは保護者にチラシなど見せない。保護者に対して、こんなに有利なのだと伝える必要がある。回覧や保護者に届く取組を実施していただきたい。

(委員) 資料中にデマンド交通の記載が端々にあるが、具体的によくわからない。デマンド交通の現状や

課題などわかれば教えてほしい。

(交通政策担当係長) デマンド交通に関しては、現状上田市では武石地域が合併前から運行している。また、武石地域では村営バスを廃止し、保育園の送迎バス、スクールバスも廃止してデマンド交通に切り替えるということで運行している。また、来月 10 月 2 日から丸子地域もデマンド交通が運行される。これまで市営の循環バスである「まりんこ号」が運行していたが、一便あたりの乗車人数が 2 人を割込んでしまうという状況であった。乗車人数のないものに税金を投入し続けるものはいかがかという意見が出てきた。公共交通のあり方について地域の方との意見交換を続けていく中で、デマンド交通がいいのではないかとということで運行を開始していくことになった。

デマンド交通というと家の前から目的地までドア to ドアで移動することができるということで大変便利な公共交通手段としてとらえられている。一方、課題もある。近隣では東御市、佐久市、小諸市では主要な路線バスを廃止してデマンド交通を導入している。それらの担当者との情報交換の中では、やはり経費が大変掛かるという点の一つ、また非常に便利にとらえられるが毎回必ず予約が必要となり煩雑に感じる方もいる。さらに乗合となるためルートによって、規定の時間に目的地に着くという定時性もないという状況もある。狭い車内に見ず知らずの人と同乗することに抵抗を感じる人もいと聞いている。このような事情もある中で、デマンド交通が直ちにバスや鉄道に成り代わる手段になるかということではなく、様々な角度から調査研究が必要になってくると思う。

(委員) 前段でも申し上げたが、これから人が減っていく中で事業を行っていくと、どんなことであろうと事業として収支を合わせていくというのは大変なことだと思う。一方、この地域の公共交通の大事な部分でのバス、そしてきめ細やかな公共交通であるデマンド交通、これらの実態をよく調べてもらい、これからの高齢者が不便の無いような手段を選んでほしいと要望する。

5 報告・確認事項

(1) 次回協議会日程

計画どおり 10 月 24 日(火)午後 7 時からを予定する

(2) その他

(委員) まず、先日の災害について、真田自治会の住民として真田地域自治センターの職員の方々には心からの御礼を申し上げたい。何しろ短時間で片付いた。私の方で災害対応の方を委託受けているので、重機等の手配などがあつたが、住宅敷地まで入り込んだ土砂は、人の手で道路上まで出していただいた。そのことで、重機により楽に片付けることができたので休みの間に 8 割がた片付いた。本当に感謝している。センターの皆さん三連休の中、またご家族の都合があつたであろう中で出ていただき、私ども自治会住民含めて本当に心から感謝している。

そしてこの災害で仕事柄、教訓があつたので皆さんにも伝えたい。本当の大災害にならなかった理由が二つある。まず一つ目は真田東部線、旧有料道路と呼ばれる箇所にて 500 立方メートル(の土砂など)がたまつた。この 500 立方というの大型ダンプ(の積載容積)が 5 立方メートルなので約 100 台分。その土砂がそこでどまつた要因が、ちょうどその道路がカーブなので道路がバンク(斜め)になっているためそこが小さなダムのようになつて多くの土砂が止まつた。水や泥は動くのでそのまま民家に流れ込み被害が出た。もう一つが、川の上流 300m ぐらいに砂防堰堤がある。その砂防堰堤は出来上がったのは平成 31 年頃だつたと思う。わずか 5 年ほどだ。そこにどれくらい土砂がたまつたのか、2000 立方ぐらいかと思つていたが、県の担当者から聞いたら 4,000 立方だそう。そこに倒木やいろいろなものが入っているので恐らくダンプ 1,000 台分だ。堰堤のできる 5 年前に今回の災害があつたら、それが一気に(土石流となつて)来ていれば、おそらくあの地区は、今頃跡形もなくなつている。小学校にも大きな被害があつたはずだ。砂防堰堤の様子を見に行つたが、心底ゾツとした。わずか 5 年前のことで、も

し昼間にでも起こっていたら子どもたちにも大きな影響があったはずだ。こういった2つが要因で、災害はあった、しかし大災害にはならなかった。これが大きな教訓だ。

それと、この地区についても江戸時代に大きな災害があったと聞いている。この辺りの土石流が石舟地区まで届いたと聞いている。それらの話も知ってはいたが、現代に起こるとは思っていなかった。砂防堰堤の存在が数十年という単位であったかどうかではなく、わずか5年前であったことは危機一髪だったといってもいい。災害の歴史というのは、謙虚に学んでいってもいいのかなと思った。特に真田地区は長谷寺のあたりに山家神社があったが下まで流されてきた。今回も長谷寺周辺も大きな被害が出ている。私の聞いた範囲でも、実相院の周辺の土砂災害、中原のあたりにも土砂災害があった歴史を聞いている。真田地域はどこにいても災害の歴史があると思っている。地域の歴史をもう一度皆さんにも学んでほしいと思っている。

もう一つが、私の実家辺りが、土石流が来た後に避難した。先ほどのとおり土砂は止まったが、避難しなければいけないという、いつ避難をするのかということが大変難しい。台風などは予知ができる。だが先日の様なゲリラ豪雨などと呼ばれるような急激な雨は予知ができない。これは大変難しい問題だ。こういったことも皆さんと話しながら考えていければと思う。私としては、時間がいいと思っている。夕立などではあれだけ強い雨でも、15分そこらで止むはずだが、先日の雨は1時間続いた。30分ほど続いたら避難を考えてもいいのかと思う。避難タイミングはこれからの重要な課題と考えている。私の経験則的な部分もあるが、皆さんに共有させてもらった。今回の経験を次に活かしていきたい。

【事務局から】

- ・丸子地域協議会だより、武石地域協議会活動日誌のコピー
- ・市民参加・協働推進課からまちづくり講演会チラシの配布について
- ・真田の郷まちづくり推進会議から防災人材育成研修等の案内【事務長 久保さん】

6 閉会